

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300016		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん 谷田川		
所在地	福島県郡山市田村町谷田川字表前58-1		
自己評価作成日	令和4年6月10日	評価結果市町村受理日	令和5年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年7月27日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の個別支援に力を入れています。  
 コロナ禍の以前は、谷田川小学校の児童との交流もあり、利用者様も児童も楽しみにされていました。毎日の体操やレクの充実を図り、季節感のある塗り絵や、計算問題など楽しんでいます。また、下肢運動や天気の良い日には散歩なども出来る様になっています。  
 コロナの影響で、今までのように、外出(花見・紅葉狩りなど)が難しい状況ではありますが、少しでも楽しんで頂ける様試行錯誤しながら取り組んでいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 利用者との毎日のふれあいの中で、一人一人の個性や希望を把握して利用者がより良く暮らせるよう課題等について話し合い、本人の状態を適切に把握した介護計画の作成に取り組んでいる。  
 2. 教育委員会が中心に研修会を計画的に実施している。研修効果を高めるため、研修後は復命書で報告し、欠席時は資料を基に自己研修し、同じく復命書で報告している。復命書は個人ファイルへ保存し、常に確認しながら内容の理解に努めるとともに、サービス向上へ繋げている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「その人らしさを大切に、1人1人に寄り添いながら、地域での生活が継続出来るように支援します」と掲げ、個別支援を実施している。理念は職員がいつでも見られるようホールに掲示してある。	理念は、地域密着型サービスの意義をふまえており、ホールに掲示して職員へ周知し、実践に繋げている。しかし、日々の中で話し合い、振り返る機会を持っていない。	理念を意識づけしていくために、管理者と職員が話し合いをし、振り返りながら共有し浸透を図ることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、地域との関わりが出来なくなっている。コロナが落ち着けば、以前のように谷田川小学校や地域との関わりを密にしていきたい	コロナ禍前は、町内会活動のクリーン作戦への参加や隣接する小学校の小学生との交流があり利用者の喜びに繋がっていたが、現在は自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今までは、定期的な運営推進会議にて、認知症の人の理解について話し、理解を深めていたが、運営推進会議も実施出来ず、地域の方との接点が減ってしまっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	意見を頂き、それに対する改善結果や話し合いをし、サービス向上に繋がれるようにしていた。	令和2年1月まで、定期的開催し、会議メンバーから率直な意見をいただき、サービス向上に活かしていたが、コロナ感染拡大に伴い開催を自粛している。次年度から、書面開催の開始を予定している。	今後、定期的な書面開催をし、メンバーから率直な意見をいただく工夫をしサービスに活かすことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの影響で、介護サービス相談員さんの来設が無くなっている。生活支援課の担当者の方とは密に連絡を取り合い生活保護の利用者様の状況報告などもしている。	管理者は、市の担当課へ利用者サービスに向けた相談に積極的に出向き、助言や情報を得ている。また、疑問点はすぐ電話で問い合わせをする等、協力関係を築く取り組みをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回身体拘束の内部研修を実施し、職員への理解する機会を設けている。	身体拘束廃止指針に基づいて、定期的に、委員を含めた他の職員も参加し話し合いをしている。また、年2回、内部研修会を実施し、個別に復命書で報告し、欠席者は、資料を基に自己研修し、同じく復命書で報告する等、徹底して身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に、内部研修を実施し、職員へ学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見人制度についても内部研修を行い、学ぶ場を設けている。また、若年性認知症の利用者様には、就労支援に通っている。成年後見人が付いている利用者様もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、金額も含め、十分に説明し納得を得られてから契約書にサイン頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で、運営推進会議や家族会・面会が出来ていないが、電話連絡などの際に意見や要望を聞き、反映できるものについては反映している。	利用者との日々のふれあいの中から、食事や飲酒、毎日の入浴等、生活の中での思いを聞き取り反映させている。また現在、コロナ禍で面会を自粛しているので、家族からは電話で意見を聞くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングの際に提案や意見を聞き反映している。	管理者は約3カ月ごとに職員個別面接を行っている。また、毎月のミーティングで自由な発言や、日々気軽に意見を言いやすい雰囲気を作り、意見・提案を出してもらい業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人と面談を設け目標など聞けるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を回覧し、職員に希望者を募り参加を促している。参加した職員には、伝達研修を行ってもらい、参加出来なかった職員にも、学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか同業者との交流する機会は作れていない。外部研修も参加できる機会も減ってしまっている		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査・契約の際に、ご本人の話に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査・契約の際・ケアプランの意向確認と同時にご家族様に困っている事を伺い少しでも力になれるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番必要としている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に出来るような関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	法人の理念である「家族の絆」を継続出来るようご家族様との関係構築に努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で、面会や不要不急の外出を禁止している為、面会もお断りしている。リモート面会も提案したが、ご家族様も高齢の方が多くなかなか難しい状態	コロナ禍で面会を自粛しているため、電話や手紙等で家族関係が途切れないように努めている。また、携帯を持っている利用者は、以前住んでいた町内の知人へ架電する等、馴染みの関係が継続するよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の性格などを把握し、孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談や連絡があった際は、フォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から、暮らし方の希望・意向を聞きなるべく叶えられるようにしている。また、聞き取りが困難な方でも、少しの訴えや表情などから汲み取るようにしている。	利用者は、一人一人、十人十色であるとの視点を持ち、一人一人の思いや希望に沿って、その人らしく暮らし続けられるように支援に努めている。また、困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様の協力頂き、生活歴を記入いただいたり、以前利用していたサービスがあれば、担当ケアマネの方に情報を頂き把握に努めている。また、入居後も、会話の中から汲み取れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様が自分なりの過ごし方が出来るよう支援している。また、1人1人の有する力や体力なども考慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や・主治医と相談しながら、モニタリングを実施し、統一ケアやケアプランへの反映に繋がれるようにしている。	利用者、家族の意向を確認し、利用者本人がよりよく暮らすための介護計画に向けて職員間で意見を出し合い、利用者・家族の意見を再度確認し同意を得て作成している。定期的にモニタリングを行い見直しをしている。また、緊急時は現状に即したものを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやカンファレンスなどで情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況を把握し、ご家族様と連携しながら、一緒に支えて行けるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1度の理髪店の来設がある。近くの根本医院の往診・受診の支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合病院などが主治医の際は、ご家族様と相談し納得の上で紹介状を頂き引継ぎ、風邪や便秘などの際に対応できる様に近くの協力医療機関にて対応している。	利用者全員が事業所の協力医による訪問診療を受けている。1人あたり月2回の受診で、緊急時は随時対応可能な体制となっている。症状変化や処方薬の変更などがあった場合、家族に速やかに報告している。他科受診の際は、家族や事業所看護師が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護員の情報や気づきを常勤看護師に伝え、主治医と連携しながら、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療連携室との連携や介護サマリーの提供にて連携している。退院時は、看護サマリーを頂いたり、ムンテラに参加したりし関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり、終末期に近づいた利用者様に対しては、ご家族様に早めに説明し、主治医より直接説明頂くようにしている。また、施設で出来る事を十分に説明し、同意書を頂きチーム支援をしている。	入居時に「契約書」「重要事項説明書」と合わせて「重度化や看取り期に向けた指針」を利用者・家族に説明し、書面で同意を得ている。看取り期が近くなったときには再度指針に基づく説明と協力医から病状説明の機会をもっている。コロナ禍以前は看取り期における家族の付き添いや宿泊も可能な体制を取っていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、2年に1回のペースで「心配蘇生法」の講習を受け急変時に対応出来る様にしている。また、内部研修で「救急対応時のシュミレーション研修」を実施し、実践力が身に付くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。今後地域の人にも避難訓練に参加促し充実していく必要がある	総合訓練を年2回(5月・10月)実施し、うち1回は消防署の立ち会い指導を受けている。毎月15日を消防設備自主点検日とし、消防設備・警報設備・避難設備・電気設備等の点検を行っている。飲料水、ご飯、缶詰、カップ麺やオムツやパッド類など3日分の備蓄品を常備している。	災害訓練の内容を細分化した年間計画の策定と実施報告の整備とともに、有事の際、地域の方々から協力が得られる体制づくりが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様によって声かけの仕方を工夫している。また、羞恥心に配慮し、トイレ介助の際は、大きな声で声かけをしないなどの配慮をしている。	トイレ誘導時は耳元で声かけをし、個々に配慮した表現を用いるなど、各場面で利用者の尊厳を大切にケアに努めている。介護記録などの個人情報、鍵付きのキャビネットで適切に管理している。入居時に「写真利用に関する同意書」を説明、同意を得る等のプライバシーを尊重した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定出来るような声かけや、答えを引き出せる様な声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になりがちだが、出来るだけ利用者のペースに合わせて過ごせる様意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な利用者様には、入浴の際などに自分で衣類を選んで頂ける様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	毎月15日には「リクエストメニューの日」を作り、誕生月の方に希望をきき提供している	職員が交代で約1週間分の献立を作成し、週3回ほど食材の買い出しに出かけている。コロナ禍前は利用者も同行していた。毎月15日はリクエストメニューの日で利用者の希望を尊重した行事食を提供している。希望者には飲酒も許可している。食器洗いや拭き取りなど無理ない範囲で利用者の手伝いを頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量には、十分に注意を払い確認している。食事量の少ない利用者様に関しては、声かけ・介助、主治医に相談し対応している。水分量の少ない利用者様に関しては、好きな飲み物を提供したり、トロミをつけたり時間帯を変えてみたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア支援している。また、みがき直しも行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時でのトイレの声かけ・誘導にて、トイレでの排泄を促している。	「トイレに座って頂く」ことを基本的ケアととらえ、定時及び随時のトイレ誘導のもと自立を支援しており、現在常時オムツ使用者はいない。なるべく下剤に頼らないよう水分や野菜の摂取、腹部マッサージ、運動の機会をもち、自然排便にも力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の摂取・腹部のマッサージ・運動を促し、なるべく自然に排便の促しをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば、入浴出来る様にしている。また、ゆっくり入浴が楽しめる様に支援している。	ひとり週3～4回入浴しているが、希望があれば毎日入浴や心身機能に応じて夕食後の入浴も可能となっている。入浴剤や柚子湯を楽しんだり、体調に応じてシャワー浴を実施している。お湯は利用者ごとに入れ替えて衛生の保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の体力に合わせて休息が取れる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の利用者様の薬について理解を持つように都度作用や副作用について調べたり、薬剤師に確認したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・食器洗い・配膳など手伝って頂き、役割を持って頂ける様な支援をしている。また、買い物へ行ったり、欲しい物を選んで頂き、自分でお金をはらったりなど支援し、楽しみや気分転換などの支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	限られた利用者様になるが、2ヶ月に1回外食へ行く支援をしていたが、コロナの影響で出来なくなってしまった。	コロナ禍で外出の機会が制限されるなか、事業所近隣の散歩、道端の花を愛でたり、駐車場のツバメの巣(雛)を見に行ったり、洗濯物を干しに外に出たりと日常生活のなかで無理なく楽しめる外出の機会をつくっている。また桜の季節には近隣でミニ観桜会も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる利用者様に関しては、お金を持ち買い物へ行ったり、自分で支払ったりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、職員の取次はあるものの自由に出る様に支援しています。また、手紙は希望時に対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには、季節感のある装飾などをし、季節感が出る様にしています。	季節感を意識し、最近では利用者の願いを短冊に書いて七夕の飾り付けを行った。階段の壁面には利用者が制作したスタンドガラス風の作品が飾られている。共用空間は利用者が就寝後に毎日清掃を行っている。温度、湿度管理、換気なども定期的に行い、心地よく過ごせる空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの席の配置を気の合う利用者様同士にしたり都度対応しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居の際・都度利用者様やご家族様に、自宅ですべて使っていたものや馴染みのある物などを持参できる事を説明し、その人らしく過ごせる様な空間づくりが出来る様にしている。	居室には、エアコン、ベッド、クローゼットなどが備え付けてあり、その他、テレビやテーブル、イス等を持ち込まれる方もいる。家族の写真や手紙を壁に貼るなど、それぞれに過ごしやすい空間づくりに配慮している。配偶者の遺影を持参している方もいる。居室内は毎日職員が清掃している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に名前を表記したり、トイレと表記したりし、工夫している。		